

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 14 日現在

機関番号：62601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25381061

研究課題名(和文) 高大接続による単位の認定方法と質保証に関する調査研究

研究課題名(英文) A Study of the Quality Assurance of College Credits Earned through Dual Enrollment

研究代表者

河合 久 (KAWAI, HISASHI)

国立教育政策研究所・教育課程研究センター基礎研究部・特任フェロー

研究者番号：30214589

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：二重登録(DE)は高校在籍中に選択したコースに対して大学の単位を取得する機会を高校生に提供する。授業料が節約できて、高校から大学へのスムーズな移行が促進されることはDEの利点である。しかし、懸念や課題も多い。これらの課題の中でもコースの厳格さやDEコースの質を確保する問題がある。

DEに参加する資格があるのはどのような生徒か、DEを提供するには教師にはどのような資格が必要かを調べるために、NACEPと高等教育委員会(HLC)のプログラム認定基準、全州教育協議会(ECS)による二重登録に関する全米データ、及び二重登録プログラムやコースの全米教育統計センター(NCES)のレポートを調べた。

研究成果の概要(英文)：Dual Enrollment (DE) provides high school students the opportunity to earn college credits for courses taken while still being enrolled in high school. Saving money on tuition and facilitating a seamless transition from high school to college are some of the benefits of DE. But there are also a lot of concerns and challenges. Among these challenges are issues of rigor and ensuring the quality of DE courses.

In order to see which students are eligible to participate in DE and what are the qualifications for teachers to offer DE, the accreditation standards of NACEP and the Higher Learning Commission (HLC), the national data on Dual Enrollment by Education Commission of the States (ECS), and the report of DE programs and courses by the National Center for Education Statistics (NCES) are investigated.

研究分野：比較教育

キーワード：高大接続 二重登録 二重単位 Dual Enrollment Concurrent Enrollment Dual Credit コミュニティ・カレッジ カリキュラム

## 1. 研究開始当初の背景

- (1) グローバル人材育成推進会議中間まとめ（平成 23 年 6 月）において国際バカロレア資格について言及があり、「高校卒業時に国際バカロレア資格を取得可能な、又はそれに準じた教育を行う学校を 5 年以内に 200 校程度へ増加させる。」と具体的施策が示された。国際バカロレアのディプロマ・プログラム（IBDP）は、プログラム修了後の共通テストで合格点以上であれば米国のほとんどの大学では大学の単位として認定されている。また、共通テストには含まれていないが、IBDP のディプロマ取得の一つの要件である「知識の理論（TOK）」を大学の単位として認めているところもある。
- (2) IBDP の他にも高校生が高校在籍中に取得した単位を高校の単位としてだけでなく大学の単位として認めるプログラムが米国にはいくつかあり（Advanced Placement、Dual Enrollment など）、これらのプログラムへの参加者も増え、プログラムについての資料や報告書も増えてきた。これらの資料等を調べ、プログラムの成果等を評価すべき時期にある。
- (3) 平成 24 年に中央教育審議会に高大接続特別部会が設置され、高大接続に関わる学習内容、指導方法、評価方法、環境整備などについての議論が始まり、しばらくは大きな課題となるものと思われるが、この研究によりいくつかの参考となる視点や情報を提供できるものと考えた。
- (4) 米国では、オンラインによるコースやキャリア教育コースにおいても大学の単位が取得できるようになってきているが、単位の質保証や取り扱いについては不明な

点が多い。

## 2. 研究の目的

- (1) Dual Enrollment は、高校在籍中に学習したコースに対して高校の単位と同時に大学の単位も与えるプログラムである。この高大接続プログラムによる大学の単位の授与についてはいくつかメリットが指摘されているが、単位の質に疑問を持つ人もいる。この研究では、高大接続プログラムによる大学の単位について、その認定基準、質の保証、単位の処遇について明らかにする。
- (2) 具体的には、国際バカロレア・プログラムの「知識の理論（TOK）」と NACEP（単位の質保証に関する全米基準を策定している団体）の評価方法を中心に、大学レベルで求められる知識や技能がどのようなものであるかを明らかにする。さらに、大学レベルのオンラインによるコースとキャリア教育コースの提供による単位の質保証や取り扱いについての調査も実施する。

## 3. 研究の方法

- (1) 国際バカロレア（IB）プログラムについては、国内・国外の IB プログラム実施校を訪問して、コーディネーターと「知識の理論」の担当者から教材や指導方法について聴取する。
- (2) Advanced Placement については、カレッジボードのウェブサイト等でコース参加者人数や成績のデータが提供されているので、動向を把握する。
- (3) Dual Enrollment については、米国調査（ミシガン州、イリノイ州、カリフォルニア州）

で Dual Enrollment 担当者（コーディネーター等）から関連資料を入手し、利点や課題を聴取する。

(4) The National Alliance of Concurrent Enrollment (NACEP) が主催する年次総会に参加して単位の質保証や長期的な戦略等に関する最新情報を入手する。

(5) オンラインによるコースとキャリア教育コースによる単位の質保証についての情報をインターネット調査と訪問調査により入手する。

#### 4. 研究成果

(1) Dual Enrollment プログラムの特徴と全米データ

AP、IB プログラムとの違い

AP、IB プログラムは、高校生に大学レベルの科目内容を提供していて、大学の単位の取得へとつながるプログラムであるという点で共通している。もう一つ共通しているのは、統一テストによる評価がある（Exam-Based である）ことである。Dual Enrollment プログラムは、これらとは違ったタイプのプログラムである。

AP、IB プログラムと Dual Enrollment プログラムの主な違いは、以下の点である。

- ・ Dual Enrollment プログラムは大学（主にコミュニティ・カレッジ）のプログラムであり、AP、IB などは大学レベルのプログラムである。
- ・ Dual Enrollment プログラムは大学の教官あるいは大学の講師として認定を受けた高校の教師がコースを教えるが、AP、IB などは研修を受けた高校の教師がコースを指導している。
- ・ Dual Enrollment プログラムを修了すると高

校在籍中に大学の単位を取得できるが、AP、IB などはコース修了後、統一テスト（コースの指導者が作成したものではない）を受け、ある程度以上の成績を収めなければ大学の単位の取得につながらない。

Dual Enrollment の全米データ

Dual Enrollment は、州によっては Concurrent Enrollment、Running Start、College in the High School、Postsecondary Enrollment Options などと呼ばれることがある。名称の不統一に加えて、コースの実施場所が高校かコミュニティ・カレッジか、どのようなコースを提供しているか、受講料が必要か否か、など、州によりかなり異なるところがあり、全容を捉えることは難しい。これまでのところ、全米での Dual Enrollment について情報を提供しているものに、全米教育統計センター（NCES）の報告書と全州教育協議会（Education Commission of the States：ECS）のデータベースがあることがわかっている。

全米教育統計センター（NCES）の報告書

Dual Enrollment Programs and Courses for High School Students at Postsecondary Institutions: 2010-11 は、米国における高等教育機関での二重登録プログラムの普及率と特性に関する全国データである。NCES は、二重登録と二重単位に関する現在のデータを収集するために、二重登録について高等教育機関への最新の調査を行い、また、二重単位について高校への補完的な調査を行った。NCES の 2002-03 年の同様な調査報告書と比較することにより、二重登録プログラムの普及率の推移が見て取れる。

二重登録プログラムとコースに関する 2010-11 年の主な調査結果としては、以下の

ものがある。

- ・全機関の 53% で、高校生が二重登録プログラムの内外での大学単位取得コースに参加した。二重登録プログラム内で大学単位取得コースを取った高校生は約 1,277,100 人、二重登録プログラム外の大学単位取得コースを取った高校生は約 136,400 人であった。登録数は重複していない数字である。
- ・少なくともある程度の指導が高校のキャンパスで行われている二重登録プログラムを提供している機関の間では、高校教師と大学の教官の両方がコースを実施したのは 45%、高校教師だけがコースの指導をしたのは 34%、大学教官だけが指導をしたのは 21% であった。
- ・機関の 60% が二重登録プログラムに参加するためには最低限必要な高校での成績評価点平均 (GPA) があることを報告した。他の学力面での資格要件では、大学実力テスト (45%) に合格すること、標準テストで最小得点 (43%) を超えていること、または推薦状 (41%) があることが含まれていた。

全州教育協議会 (Education Commission of the States : ECS) のデータベース

ECS の Dual Enrollment についてのデータベース (Dual Enrollment - All State Profiles) は、全州に下記の調査項目について質問して、その回答をまとめている。データは 2015 年 2 月に更新されている。

( <http://ecs.force.com/mbdata/mbprofallRT?Rep=DE14A> )

- ・プログラムの基本的情報 (州全体の政策であるか、プログラムの定義あるいは名称は、コースを提供している場所は、取得できるのは大学の単位と高校の単位の両方/一方だ

けか、生徒は二重単位に対する補習コースを受けることがあるか、CTE (職業教育) が含まれているか、ユニークな特性は)

- ・利用する方法 (提供は義務的か任意か、提携大学は 2 年/4 年/2 年と 4 年の両方か、生徒の資格要件は、生徒が取得できる単位数の上限は、二重登録の機会について生徒/親に通知しなければならないか、カウンセリング/助言を生徒は受けられるか)
- ・財源 (授業料の支払いは主に誰に責任があるか、州は参加高校にどのように資金を出しているか、州は参加大学にどのように資金を出しているか)
- ・プログラムの質の保証 (教官とコースの質についての構成要素、プログラムの報告要件、プログラム評価の構成要素)
- ・単位の移動 (公立の高等教育機関はこれらの単位を受け入れなければならないか)

## (2) Dual Enrollment の生徒の参加資格

Dual Enrollment で大学のコースに参加するには、コースについていけるだけの学力や適性がなければならない。一般的には 11 学年生と 12 学年生に参加資格を与えているケースが多い。また、取得できる単位数も制限していることが多い。学力面では GPA、SAT、ACT などの成績で参加資格の判断がなされている。例えば、ミシガン州では、SAT、ACT、Michigan Merit Examination (MME) の試験では参加資格を次のように定めている。

- ・ SAT の Critical Reading で 480 点以上、Mathematics で 530 点以上。
- ・ ACT の Mathematics で 22 点以上、Reading で 22 点以上、Science で 23 点以上、English で 18 点以上。
- ・ MME の ELA、Mathematics、Science、Social

Studies のそれぞれで 2100 点以上。  
( Minimum Dual Enrollment Qualifying Score  
2015-16 and 2016-17 )

また、多くの学校では、参加に際しては、  
スクールカウンセラーとの相談や親の同意書  
も必要であるとしている。

### (3) Dual Enrollment の質の保証 ( NACEP )

全米併行登録パートナーシップ連盟 ( The  
National Alliance of Concurrent Enrollment  
Partnerships: NACEP ) では 併 行 登 録  
( Concurrent Enrollment: CE ) プログラムは  
次のような特徴があると述べている。

- ・ 高校教師が通常の授業日にカレッジのコー  
スを教えるプログラムである
- ・ 高校とカレッジとを接続するプログラムで  
あり、高校の教師とカレッジの教官に協力  
する機会を与えている
- ・ 生徒は、一発勝負のテストの結果で大学の  
単位を取得するのではなく、コースを通し  
ての様々な評価に基づき大学の単位を取得  
する
- ・ 生徒は、過去に学んだことに対して遡及的  
に単位を取得するのではなく、コースの修  
了時に証明書付きの大学の単位を取得する

NACEP は、カレッジのコースのレベルを  
下げないようにすること、また、取得したコ  
ースの単位が契約を提携した狭い範囲の地域  
の高校とカレッジの間だけで通用するもので  
はなく、より広い範囲の州のどのカレッジで  
も、あるいは他のいくつかの州でもカレッジ  
の単位として認められるようにするために全  
米基準を設定し、ワークショップを開催して  
情報交換や教員の資質向上の支援を行ってい  
る。基準は5つのカテゴリー( カリキュラム、  
教授陣、生徒、アセスメント、およびプログ

ラム評価 ) を設定している。NACEP に加盟  
して NACEP の基準に従うことで単位の質が  
保証されるようにすることを目指している。

2009 年 12 月の時点では、NACEP によっ  
て認定された団体は 47 であったが( その内訳  
は、23 の 2 年制の公立大学、19 の 4 年制の  
公立大学、5 つの 4 年制のカレッジおよび大  
学 ) 2016 年 1 月現在、加盟機関は 48 州に及  
び、241 の 2 年制の大学、117 の 4 年制の大  
学、41 の高校と学区、22 の州の機関や事務  
所に増えている。

### (4) Dual Enrollment の教師の資格

米国を 6 つの地域に分け、それぞれの地域  
で、学位を授与するカレッジや大学を認定し  
ている地域認定機関がある。高等教育委員会  
( Higher Learning Commission : HLC ) は、  
シカゴに本部を置く地域の認定機関の一つで、  
米国の 19 州からなる北中部地域を担当して  
いる。地域の認定は教育機関の質を全体とし  
て認証し、学術的な提供物、ガバナンス、管  
理、ミッション、財政、およびリソースなど  
多面的に機関の評価を行っている。認定プロ  
セスは、ピアレビューによる。

HLC は、二重単位プログラムやコースの学  
術的整合性や保証についてのガイドライン  
( 「二重単位 : 機関とピアレビューのためのガ  
イドライン」 ) を作成している。ガイドライン  
では、機関が二重単位の学術的整合性を保証  
するために満たさなければならない 5 つの基  
準 ( 基準 1. ミッション、基準 2. 品位 : 倫理的  
な行い、責任ある行動、基準 3. 指導と学習 :  
質、リソース、および支援、基準 4. 指導と学  
習 : 評価と改善、基準 5. リソース、計画、機  
関の有効性 ) を設定している。

HLC は、教員の資格要件について、「二重

単位コースを教える高校教師は修士の学位を取得していること。もし、教えている教科で修士号を取得していない者は、大学院でその教科に関する 18 単位を取得しなければならない」と明確に述べている。これについては以下のような心配や不満の声がある。

- ・二重登録プログラムは人気があり増えているが、地方の高校教師でこれらのクラスを教える資格がない者がいるかもしれない。
- ・教師は修士号を持っていたとしても、通常は教育やカリキュラムや指導法についてのものであり、教えている分野についてのものではないことがある。
- ・優れた指導の代用物として修士の学位を使用していることには同意できない。学位は質を必ずしも保証しない。
- ・AP や IB コースを担当する教師には修士学位を持つことが求められていない。

NACEP の理事長であるアダム I.ロウ氏は、「これは基本的に併行登録プログラムが今日直面している最も重要な課題です。いくつかは移行中にかなり縮小していくでしょうが、すべては、将来への十分な資格を持った指導者の供給経路を構築する必要性に直面しています。」と述べている。

また、全州教育委員会 (ECS) でこの問題を研究しているジェニファー・ジンスは、「最近の ECS 分析によると、すでに6つの州では、このようなプログラムにたずさわる教師は修士号を持っている必要があることを明記している。他の多くの州では、教師は、職員や非常勤講師のための中等教育後の要件を満たす必要があると言って、それほど明確に規定していない。」と述べている。

新たな動きであるオンラインによるコース

については、あまり深く調査ができなかったが、オンラインでも大学の単位が取得できる環境が整ってきたこともあり、単位の質についての保証をどのようにすべきかといった議論が盛んになっているということは指摘しておきたい。

#### 参考文献

- ・ Dual Enrollment Course Content and Instructor Quality. ECS Education Policy Analysis. Dounay Zinth, Jennifer – Education Commission of the States, 2015
- ・ New Teacher Requirements Jeopardize Dual-Credit Classes. Catherine Gewertz. Education Week. October 14, 2015.
- ・ Dual Enrollment Programs and Courses for High School Students at Postsecondary Institutions: 2010-11. First Look. NCES 2013-002. Marken, Stephanie; Gray, Lucinda; Lewis, Laurie. National Center for Education Statistics. Publication Date: 2013-Feb

#### 5 . 主な発表論文等

なし

#### 6 . 研究組織

##### (1)研究代表者

河合 久 (KAWAI HISASHI)

国立教育政策研究所・教育課程研究センター基礎研究部・特任フェロー

研究者番号：30214589

##### (2)研究分担者

なし

##### (3)連携研究者

なし